

江崎グリコのルートが見える 江崎記念館

〒555-8502
大阪市西淀川区歌島4-6-5
JR東海道本線 塚本駅より徒歩16分
JR東西線 御幣島駅より徒歩18分
ご見学予約・お問い合わせ
TEL 06-6477-8257
【自由見学制】
開館時間：10:00～16:00
(最終入館15:30)
開館日：月曜～金曜(要事前予約)
第1・3土曜日(予約不要)
※休館日：第1・3土曜以外の土曜日
1月・5月 第1土曜
8月 第3土曜
日曜・祝日・お盆休み・年末年始
※臨時休館する場合がありますので、予約時にご確認ください。
※団体(20名以上)での見学は前日までに事前予約をお願いします。



<http://www.glico.co.jp/kinenkan/> QR Translator

お菓子の工園 グリコピア神戸

〒651-2271 兵庫県神戸市西区高塚台7丁目1番
http://www.glico.co.jp/glicopia_kobe/

ご見学の予約

お問い合わせ **TEL 078-991-3693**

※見学には予約が必要です。

電話受付時間 開館日の9:00～17:00(休館日:毎週金曜日／お盆休み／年末年始)



わくわくファクトリー グリコピア・イースト

〒364-0013 埼玉県北本市中丸9丁目55番地
<http://www.glico.co.jp/glicopia/east/>

ご見学の予約

お問い合わせ **TEL 048-593-8811**

※見学には予約が必要です。

電話受付時間 開館日の9:30～16:30(休館日:毎週金曜日／お盆休み／年末年始)



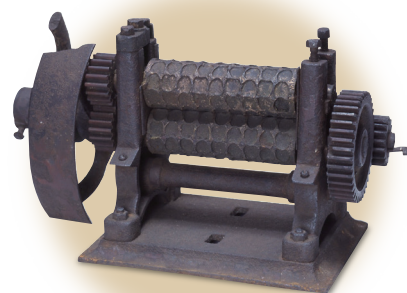
おいしさと健康

Glico



江崎記念館 Ezaki Memorial Hall

近代化産業遺産認定



グリコのハート型のローラー
(1922)

江崎グリコ株式会社

江崎グリコのルートが見える

食文化を通じて感動を創造する

企業ミュージアム「江崎記念館」は、1972(昭和47)年3月、創立50周年記念事業の一環として、従業員に創業の志を伝え、社業の発展に寄与するため設立したものです。館内には創業以来の江崎グリコのあゆみに関する資料、製品・販促品をはじめ、創業者江崎利一ゆかりの品々を展示しています。展示品の一部は、国の近代化産業遺産に認定されています。

Ezaki Memorial Hall was established in March of 1972 as one of the milestone events conducted to commemorate the company's 50th anniversary. This special project conveys our founder's will to all employees, and contributes to the company's prosperity. Here you will find various exhibits of historical importance pertaining to the company's development, as well as personal effects associated with Riichi Ezaki, founder of Ezaki Glico Co., Ltd.

The Philosophy of Glico 「おいしさと健康」

おいしさの感動を
健康の飲びを
生命の輝きを

Glico は、ハート・ヘルス・ライフの
フィールドでいきいきとした生活づくりに
貢献します。

グリコの軌跡をたどる旅へ

「“おいしさと健康”を基本理念に 子どもたちを思う心が 「グリコ」を生む」



創業者 江崎 利一
Founder Riichi Ezaki (1882-1980)



創業時にグリコを
練ったしゃもじ(杜室)

真空釜(1930)

生涯、事業への情熱を 燃やし続けた創業者の足跡

「事業奉仕即幸福 事業を道楽化し、死ぬまで働きつづけ学びつづけ息が切れたら事業の墓に眠る」の座右の銘。のとおり、創業者江崎利一は、1980(昭和55)年2月に、満97歳(数え99歳=白寿)の天寿を全うして現役経営者で、この世を去りました。

佐賀で薬種業の長男として生まれ、グリコーゲンと出会い、そしてこの世を去るまで、全身全霊を傾けて事業を起こし、事業を発展させた情熱・精神力は晩年にいたるまで燃え盛り、その創意工夫の精神と「おいしさと健康」の企業理念は、今日の江崎グリコに受け継がれています。ここでは、江崎利一が生前使用していた思い出の品々…家業を助けたながらも人一倍勉学に励んだ学生時代の文具、商道を志し熱心に研究を重ねた資料や文献、愛用の机、写真などを展示しています。

Period of foundation

すべてはグリコーゲンとの出会いから始まった

1919(大正8)年春、創業者江崎利一は佐賀県有明海で、一生を左右する大きな出来事に出会いました。

岸辺で漁師たちが、中国に輸出する牡蠣を大きな鍋で煮ており、煮上がると煮汁をざあーと捨てていました。それを見て、薬業新聞に「牡蠣には栄養素グリコーゲンが多量に含まれている」という記事が書かれていたのを思い出し、天啓のようにひらめくものがありました。そこで利一は、その煮汁からグリコーゲンを抽出し、病気の治療より予防に役立てようと考え、国民の体力・健康づくりを目的として、栄養菓子グリコを創製しました。グリコーゲンを含むことからグリコと名づけたのです。

ここでは、グリコーゲン関連資料や、ゴールインマークの成立ちと変遷、創業時代の工場模型、ハート型ローラーや真空釜などを展示しています。併せて、1935(昭和10)年発行の社内報や社員章、給料袋など従業員に関連した品々も展示しています。

History of products

赤い箱に、ゴールインマーク キャッチフレーズは「一粒三百メートル」

創業者江崎利一は、製品名(グリコキャラメルではなくグリコ)、形状(ハート型)、意匠(赤い箱)、商標(ゴールインマーク)、キャッチフレーズ(一粒三百メートル)をどうするかまで用意周到に決め、たうえて、佐賀から大阪に居を移し、1922(大正11)年2月に栄養菓子グリコを売り出しました。ここでは、栄養菓子グリコ、ビスコをはじめ、アーモンドチョコレート、ポッキー、プリッツなど当社を代表する製品を紹介しています。



ビスコ(1933)

ワンタッチカレー(1960)

グリコ(1929)

アーモンドチョコレート(1958)

ポッキー(1966)

History of advertising

時代を先取りする広告戦略のすべて

江崎グリコはいつも楽しいことを考えていたい……。数々の広告やキャンペーンは、その心をいきいきと表現し、先へ先へとわくわくする楽しさを届けてきました。ここでは、創業時からのユニークな新聞広告、おなじみのタレントが登場したテレビ広告や引換賞品の数々を展示しています。なかでも、グリコ映画付き自動販売機(複製)は、1931(昭和6)年に10銭を入れると、音楽と映画が流れ、「グリコ」とおつり2銭が出てくるという画期的な仕掛けで、東京を中心に100台設置され、行列ができるほど人気を呼びました。



映画付き
グリコ自動販売機
(1931)

おしゃべり九官鳥(1966)

創業の時代

製品の歴史

広告の歴史

History of the glico toys

子どもたちの心身の健康を願って、 お菓子と豆玩具をひとつの箱に

「子どもにとって、食べることと遊ぶことは二大天職」と考えた創業者江崎利一は、発売初期に入れた絵カードをヒントに栄養菓子に豆玩具を入れて、心・身の健康を一つの箱に収めることを思いつきました。

豆玩具(おもちゃ)は今でも親しまれ続けています。

ここには、創業時から現在までの約4,000点を展示しています。



絵カード(1921~1923)

初期のおもちゃ(1935~1940)

ミニチュアおもちゃ(1953~1957)

メダル(1927)

紙のおもちゃ(1949~1952)

プラスチックおもちゃ(1957~1966)



男の子、女の子おもちゃ(1967~1973)

キャラクターおもちゃ(1981~1986)

木のおもちゃ(1998~2004)

大きくカラフルなおもちゃ(1974~1980)

親子で遊ぶおもちゃ(1987~1993)

アソビグリコ(2010~)

おもちゃの歴史